

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
会報 第37号
平成6年6月24日発行
編集人 上 杉 重 吉

思い出すことども

54期 佐野圭司

わたくしは旧制静岡中学を六年やりました。大病をやって休学したためです。不思議なもので、この大病のあとは体質が変わって健康になりました。その後は足踏みますことなく、旧制静岡高校、東大（当時は東京帝国大学という名でした）と進むことができました。

学部四年の課程も三年に切りつめられ、そのかわり休暇は一切返上という忙しい学校生活でした。現在のような部活動はありませんでした。一九四五年三月十日の東京



旧制高校三年の十二月に大東亜戦争（と当時呼んでいました）がおこりました。わたくしの中学時代の同級生のうち海軍兵学校へ行った人達はこの戦争の初期の段階で戦死しています。かれらは皆優秀な人材でした。

軍医も不足ということで東大医

大空襲の時は東大病院の第一外科に配属されていましたが、次々にはこびこまれてくる負傷者（ほとんどは全身の火傷でした）の大部分は破傷風で死亡してしまいうり

に茫然の体でした。

この四月から海軍にとられ、はじめは戸塚の軍医学校、ついで湊の海軍病院に配属されました。海軍にはもう乗るべき船も無かったのです。海軍病院は本土決戦にそなえた特攻隊の基地の近くにあって、毎日、基地が爆撃されるたびに、負傷者がかつぎこまれ、その治療に忙殺されました。この病院ではじめて虫垂炎の患者の手術をやらせてもらった思い出があります。

終戦後九月に復員しましたが、在学中の因縁で東大第一外科に入局しました。入局二年目に突然教授（大槻菊男先生）に呼ばれ、大学院特別研究生（これは戦時中、人材確保のためにできた制度で、大学の各学部で数名選ばれ、その数名に月給をくれるのです。その月給は助手のよりも高給でした）に任ずる、ついでには脳神経外科を専攻せよといわれました。それで

助教授の清水健太郎先生をお手伝いしながら、時々入院してくる脳腫瘍や脊髄腫瘍の患者さんの受持ちをつとめました。その中につづけて数名、明治四十一年に高安右人氏が報告したような眼底所見を呈する患者さんがありました。失神発作を呈するので入院して来たのです。清水先生とわたくしは、この病気の本態が大動脈弓とそれから出る頸動脈、腕頭動脈、鎖骨下動脈の炎症性変化によるものであることをつきとめ、昭和二十三年（一九四八）に「脈無し病」と名づけて発表しました。この年は日本脳神経外科学会の前身である研究会が始めて開催された年でもあります。

昭和二六―二七年に文部省留学生として米国にわたりました。当時の彼我的生活水準の差は天地ほどもあり、こんな国と戦争したのかとあきれました。サンフランシスコ滞在中に吉田首相が来て、講和条約が結ばれ、はじめて日の丸の旗がホテルに上がった時は感激しました。米国で感じたことは日本では一般外科医が片手間に脳神経外科をやっているが、欧米ではすべて専門家が診療している、日本でも脳神経外科すなわち神経系の外科が一般外科から独立しない

と欧米におくれをとるということでした。さいわい昭和三七年（一九六二）に日本ではじめて脳神経外科講座が東大に許可され、わたくしがその初代教授に任ぜられました。しかし当時は脳神経外科は医療法第七〇条にみとめられた診療科名ではなかったので、厚生省や医師会にはたつきかけ、やっと昭和四〇年六月に脳神経外科という診療科名が法律改正により医療法にのりしました。これから全国の病院に脳神経外科がもうけられるようになったのです。

全世界の脳神経外科学会を統合したIACNSという組織がありますが、昭和四四年から四年間その会長に選任され、昭和四八年十月に第五回国際脳神経外科学会を東京で開催することができたのも、東大在職中の思い出です。現在日本の脳神経外科は米国と共に世界をリードする存在になりました。

■佐野氏は東大名誉教授。一九二〇年富士宮に生まれ、四五年東大医学部卒業。六二年より約20年間東大教授（脳神経外科の初代教授）、その後帝京大医学部教授となられた。日本脳神経外科学会会長などを歴任、国際的に活躍され、八八年紫綬褒章を受章。今春勲三等旭日中綬章を受章。

役員の業務分担について

私共役員会では関東同窓会のさらなる発展と、魅力ある会の育成のために如何したらよいかを常々議論して参りましたが、このたび役員の業務分担を明確にして会の運営をより円滑にする事を提案し先般幹事会でご諒承いただきましたのでよろしくご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

◇会長
大石 巖 (53)

◇副会長・総括
奥野 孝 (53)

◇総務
幹事会・役員会・総会の計画・運営

奥沢 徹 (59) 味岡 宏 (70)
海野幸雄 (71) 池田幸司 (85)
深津俊郎 (85)

◇渉外・企画
本部及び地域同窓会の連絡・出席等、ゴルフ会などリクリエーションの計画・運営

成岡英彦 (67) 荒谷じつ子 (68)
山中博司 (73) 沢井良輔 (87)

◇会報・名簿
企画・原稿依頼・作成・発行

上杉重吉 (60) 庵原悌次 (54)
相川富士雄 (55) 神谷東洋 (69)

◇学生の会
同窓学生の就職相談等

薬科名雄 (87) 丹沢卓久 (105)
相坂摂治 (108)

◇会計・事務局
総会資料作成及び幹事会・役員会案内の作成・発送・記録・会計事務

田中俊男 (66) 薬科名雄 (87)
沢井良輔 (87) 鳥巢 修 (89)

◇会計監査
会計監査及び報告

後藤弘枝 (71) 松野敦子 (94)

事務局よりお願い

①振込用紙は会報発行のたびに、会費の納入済・未納にかかわらず銘々に同封しておりますのでご諒承願います。なお、用紙の裏面に必ず期名を記入して下さい。

②住所変更及び勤務先部署等の変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。

③会報及び名簿に新たに広告掲載を希望する方は事務局にお知らせ下さい。

◎各期の幹事は、ぜひ幹事会へ出席してください。もし欠席の場合は代理の方に依頼をお願いいたします。

◎幹事が未定・不明の期では至急幹事を選出して、事務局まで連絡してください。

〒153 目黒区上目黒2-18-13
山中ビル タカラ歯科医院内
静中・静岡関東同窓会

薬科名雄 (87期)

(電) 〇三三七九二一三五八〇
電話は午後〇時〜午後六時にお願います。

FAX 〇三三七九二一七八二八

各期幹事の一覧

幹事が変更の場合は事務局までお知らせください。特に幹事未定の期(83・88・91・98・99・101)は至急選出してご連絡を!

42: 井出多米夫・岩波信平

43: 今井志郎・西沢純三

44: 高橋真一

45: 鈴木弥門・田附敏三

46: 西 静男・山本幹夫

47: 杉山栄一

48: 原崎進一

49: 菅沼 栄・杉本久敬

50: 梶原忠治

51: 佐伯正剛

52: 服部雅雄・広川 聡

53: 奥野 孝・山菅章雄・月見里得知郎

54: 庵原悌次

55: 相川富士雄・法月重雄

56: 清水逸郎・鈴木源一

57: 岩井平一郎・影島利邦

58: 田熊博邦・藤田 登

59: 青木静男・奥沢 徹

60: 上杉重吉・堤 崇・山本雅之助

61: 大石次男

62: 63: 木下景一・白鳥芳夫

64: 65: 野沢正憲・渡辺素夫

66: 田中俊男

67: 朝比奈正三・梶原由三・成岡英彦

68: 高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生

69: 小林泰三

70: 味岡 宏・川端正良・関哲男・中馬敏雄・宮本達治

71: 兄玉文男・後藤弘枝・海野幸雄・篠原 直

72: 桜井亮介・深田 均

73: 杉山 光・中西英一

74: 佐藤鐘司・藤原経史

75: 後藤正義

76: 酒井孝太郎・鈴木 浩

77: 加藤重信・野方重人・三浦位通・清水雅尚

78: 鈴木藤男

79: 上田尚亮

80: 野崎幸彦・諸星勝保

81: 鈴木素明・萩原英昭

82: 杉本三郎・堀内淳司

83: 榊原明生・田辺 哲

84: 池田幸司・増井喜一郎

85: 成岡和美

86: 橋村芳一・平岩正史・薬科名雄・沢井良輔

87: 鳥巢 修

88: 荒井千明・小林一郎

89: 清水 篤

90: 93: 岡村幸彦・望月 朗

91: 松野敦子

92: 新村昌弘

93: 奥田規之・細沢 優

94: 藤森 尚

95: 船橋 智

96: 田代卓靖

97: 田代卓靖

98: 田代卓靖

99: 田代卓靖

100: 田代卓靖

101: 田代卓靖

102: 田代卓靖

103: 田代卓靖

104: 田代卓靖

105: 田代卓靖

106: 田代卓靖

107: 田代卓靖

108: 田代卓靖

109: 田代卓靖

110: 田代卓靖

111: 田代卓靖

112: 田代卓靖

113: 田代卓靖

◎関東同窓会の運営は会員みなさんの拠金によるほ

かありません。幹事の方から同期生に呼びかけてくださいませんか。

▼お願い▲

一、この会報についてご意見・ご希望をぜひお寄せください。
一、同期会報告、回想・随想・詩歌など、会報の原稿をどしどしお送りください。(15字詰め)

回想・随感・近況など

七十七歳の

センチメンタリズム

50期 梶原 忠治

青年は未来に生き、老いたる者は過去をなつかしむ。この年になつてやたらにすぎ去りし十五の春をなつかしむ、この気持は何とも押えようがない。

春爛漫の花の頃、静中の桜咲く校門をくぐった感激は今もって忘れられない。五十年もの昔、清水の寒村から天下の名門静岡中学に入学するのは容易な技ではなかった。

小学校六年生の秋から居残り授業とやらをさせられ、担任の先生が梶原は静中を受けるなら放課後教室に残れといわれ、五、六名の学友と夜おそくまで特訓を受けた。私の家は貧乏でとても上の学校を受ける資格はなかったが、当時は家を興し身を立てる立身出世の世の中で、学校でも行かなければ一生社会の下積みで甘んじ貧困な生活を送らねばならない、学校さえ出ていけば出世は約束される世の中だった。私は静中の校章に憧れ

た。我が一生で一番充実した時、それはあの印高の帽子をかぶった時である。

一番屈辱を感じたのは三年生に銃器庫の裏に呼び出され、女学生と話をしただけで往復ビンタを喰ったことである。

当時静岡電鉄で通学する時は、前の方は女子、後の方は男子ときまっていた。今でこそ共学でお手つないで行くけれど、硬派の上級生にとって軟派の下級生は誠に鼻持ちならぬ存在であった。

今でこそ五十期であろうが四十七期であろうがそれほど違和感はないけれど、新兵と古兵の違いがあったのである。

同窓会の集いの折など昔は甲子圖で優勝したとか東大に何人入ったとか自慢するけれど、それを後輩に押しつけるのは無理である。

スポーツも優秀で勉強も出来るなんて人は、奇人中の奇人で、通例は平々凡々能力もなく特技もない人が普通に世を渡っているのである。個性をのびせとか、多様化教育とかいうが、それほど個々人に

特性があるのだろうか。

私は静中五年間、実に平々凡々の生活だった。クラブに入るわけでもなく毎日の生活は判を押したようで、予習復習で明けくれた。

教えられた授業は必ず復習し、そして明日習うところは必ず下見する、テレビもなければラジオもない夜、専心燈下で親しんだ。それでは随分哀れな人生だったと人はいうけれど、これが静中生の人生の縮図だと思っている。

一生テレビにうつったこともない、ラジオで一声も放ったこともない。タレントや芸能人のような華々しさもないかわりに、ただ呼吸しているだけという窒息しそうな生活だが、それでも私は満足しているのである。

「人生五十、功なきを恥ず、なんで太公出でずんば」なんて野心もない。これがフィフティ・フィフティの人生だと思っている。今まで健康で、この年まで生きていられたこと、これが私の一番の自慢である。

静岡の万葉を歩く

(その八)

51期 原崎 郁平

清水市興津中町の清水市東部老人いこいの家の門内に、次の歌を

その後の同窓会活動

(平成5年12月〜6年5月)

◇幹事会

平成5年12月16日(木)

18時30分

新日本証券食堂

出席者：32名

・会報36号発送依頼

・打合わせ ほか

◇幹事会

平成6年3月10日(木)

18時30分

彫った万葉歌碑が立っている。

磐城山(いわきやま)直(ただ)

越え来ませ磯崎の

許奴美(こぬみ)の濱にわれ

立ち待たむ

(巻二二―三一九五)

揮毫者は老人会々々長山梨甚一氏で、昭和五十六年四月に建てられている。高さ約一五〇センチメートル、幅約一六五センチメートルの石碑である。

歌の大意は、「磐城山(薩埵峠の古名)を直ぐぐに越えておいでなさい、磯崎のこぬみの浜に私は立ってお待ちいたしましょう」である。「磯崎の許奴美の浜(こぬみのはま)」は由比の海岸である。歌碑の右下に黒い磨石の小碑に読

新日本証券食堂

出席者：34名

・総会について打合せ

・運営等について意見交換

・会報・名簿の件

・学生部発足の報告および就職相談の企画など

◇役員会

5月10日(火)18時30分

新日本証券会議室にて

出席者：13名

・役員業務分担の件

・総会の準備など打合せ

みくだし文が書かれ、「清水市興津地区老人クラブ連合会建立」と記してある。

この歌碑の立っているところへ行くには、JR東海道線興津駅で下車し駅の東側の踏切で線路を渡り、線路沿いに東行すると国道五二号線に出るのでこれを北へ曲がる。五百メートルで右へ折れ、三つ目の道を左へ進むと百メートルたらずで右側に目指す「老人いこいの家」がある。興津駅から距離にして約一・三キロメートル、時間にして徒歩約十五分である。

薩埵峠(さつたとうげ)は昔は磐城山(岩木山)と呼ばれ、東海道の難所として知られていた。平安時代の末頃に付近の海で漁師の



網で地蔵薩埵（菩薩—ぼさつ）の像が引き上げられて山上に祀られたため薩埵峠と名付けられたという。薩埵峠を舞台にした戦いに二つの薩埵山合戦がある。一つは南北朝時代の足利尊氏と直義（ただよし）兄弟の戦いであり、あと一つは戦国時代の武田信玄と北条氏康・今川氏真との攻防戦である。薩埵峠からの眺めは非常によく、富士山・駿河湾・伊豆半島などが一望に見える。遠い昔平安時代、伊勢物語の在原業平公もこの峠を越えて東下りをされ、初めて

出会う富士の秀麗さに見とれ、『時知らぬ山は富士の嶺いつとてか鹿の子まだらに雪のふるらん』と詠まれた。江戸時代にここを旅した大田蜀山人は『山の神 さった峠の風景は 三下り半に書きも尽くせじ』という狂歌を残している。峠は断崖が海に突き出しているたので海岸を通るのは困難であったが、安政の大地震で海中の地盤が隆起し、峠を通過していた旅人は海岸を通ることができるようになった。

興津駅の北側に農林水産庁所属の果樹試験場がある。この試験場は歴史が古く小生が大正年間の終りに幼稚園の集団遠足で見学に行った記憶がある。近くを流れる興津川は鮎の漁場として知られており、シーズンになると遠方の各地から釣自慢がやってくるので鉄道列車の窓から見える。東日本で一番早く解禁になる川で鮎の味のよいことで知られている。

この桜蝦は珍しくもない日常の食べ物であったが、その後この桜蝦は全国でもこの土地の特産物であることを知ってあらためて見直したことがある。この桜蝦は現代文学にも登場する。沼津出身の作家である芹沢光治良の代表作『人間の運命』に次のような文章がある。『ふと目を開けると列車の窓に海がよせていた。晴れわたった空にさからうような紺青の海だ（駿河湾のこと）。水平線から次々に白い波頭をたててよせている。森次郎（この小説の主人公）はいそいで窓をハンカチで拭いた。目の下で老いた漁師が二人、ひろげた網のそばにしゃがんでいた。黒い砂浜に赤い大きなもうせんが何枚も敷かれて、手拭をかぶった婦人が数人ふちにたずんでいる。鷗が白く碎ける波頭をかすめて、赤いもうせんの方へ翔んだ。赤いもうせんと思ったのは、桜蝦をほしてあったのだ。が、すぐに伊豆の山脈が見え出して松原が窓にとびこんだ。そのとたん、次郎は胸の底から湧きあふれるような感動で身ぶるいした。』



日・英・唐・希語の詩と音韻について

51期 佐伯 正剛

表題を詳しく述べれば、「日本語、英語、ギリシア語の詩及び唐詩又は漢詩」の音韻について」という意味です。これは今年二月、日本翻訳連盟の月例セミナーで「漢詩の構造と音韻の概要について」と題して講話したものの大要です。

日本古代の万葉集の長歌、短歌、その後現代に至る和歌・俳句、英語の長短各種の詩、古代ギリシアのホメーロスの代表作「イーリアス」及び中国古代の漢・唐時代の漢詩・唐詩（以下単に漢詩という）について広い意味での音韻の構造・種類及び相互の類似点・相違点の比較をしたものです。内容が世界の古今、東西に亘る上、紙面の都合もあり、その詳細は述べられませんが、その要約を紹介してみます。

以下、必ずしも年代順ではありませんが先ずギリシアの詩について述べます。前述の「イーリアス」は叙事詩の一つで紀元前五世紀頃の作と言われますが、その頃既にギリシアには叙事詩、叙情詩につ

いて二種ずつの韻律があり、字音の長短の配列により「ダクテュロス」・「スポンディオス」及び「イアンボス」・「トロカイオス」のそれぞれ二群に区別されていたようです。「イーリアス」は一行が「ダクテュロス」を主とするそれから六個から成る韻律で構成される連綿一万五千行の長編で、トロイ戦争の勇将アキレウスの人情溢れる活躍を述べております。

これに日本の和歌・俳句を比較しますとこれらは五語又は七語から成る韻律の組合せによる、それぞれ五節、三節の叙情的叙情詩及び叙情的叙事詩と言えるようです。

英語詩に於ては主として脚韻（頭韻もある）を踏むものであり、末尾の一語（又はその語の最後のシラブル）の音を同じくする（主として隔行の押韻）という特長を有し、前述の韻律とは構造を異にするものです。

最後に漢詩のうち主として五言絶句、又は七言絶句については一般に二、四行目又は一、二、四行目の末尾の字には、「四声」を同じくする脚韻のあることは衆知の通りですが、実はこの脚韻を含む二十字又は二十八字の総てに四声又は平仄の区分及び配列に関して

いくつかの厳しい制約があり、所謂「平仄が合わない」ものは正しくは漢詩ではない又は似て非なるものと言われます。

又、この漢詩及び前述のギリシアの詩では既に当時から笛と弦楽器の伴奏(主として女性)による朗誦が行われ、個人又は複数の人により大家又は宮廷等で披露されていたと言われます。これは古くから日本で行われている新年の宮中における御歌会始等に似たところがあると思われます。

最後に以下は全く蛇足ですが、昨今「カラオケ大会」(同ボックスではない)が日本は勿論韓国、中国、更には欧米各国で急速に普及し始めたと言いますが、これはオーケストラの伴奏による歌い手の、特に小節、手振り、身振りの、表情を含む演技と聴衆との三者が渾然一体となった音の世界の総力を総員で楽しむことにあると言うのが私見です。

(平六、三、二三)

第四の人生

55期 吉野 悟郎

小生、今生最後と思われる第四の人生を千葉県安房郡天津小湊町天津一五四五の一(T.E.L. 〇四

七〇九四一〇〇五)で送っており、既に十年がたちました。

何故第四の人生かといえますと先ず第一の人生は昭和十七年に学校生活に別れをつげ海軍に入り、昭和二十一年六月に復員するまでの毎日が危険と隣り合せのようであった人生。第二の人生は昭和二十二年から昭和五十三年までの三十一一年にも亘る労働基準行政で労働者の安全衛生一筋の役人生活。第三の人生は労働省退官後の新しい外部団体の設立とその運営に携わり、なんとか軌道に乗せて後進に譲るまでの昭和五十三年から昭和五十九年までの人生。そして前記の地に隠棲し、晴耕雨読の毎日を送っているのが第四の人生という訳です。

さて、何故第四の人生が天津小湊町かといえますと、小生の先祖がここで明治の初期まで代々「浜名主」といって漁師達の元締めをしていたからで、現在でも宅地や農地を所有しております。ところが何の因果か小生が一族を代表してこれを維持管理する羽目になったのが始まりです。そして永年小作に出していた農地(一反三畝)が昭和五十七年に返されたので、まだ東京に住んでいたのですが週末に畑仕事をするのにして、約

一年位はほとんど毎週末肉体労働で過ごしたのが晴耕の始まりなのです。

なにはともあれ、週末農業からスタートした畑は一年間で一五〇坪位になりました。我ながらよくやったものだと思つたし、なんとか色々の野菜を収穫する喜びを味わっている反面、晴耕雨読の晴耕は、当初考えていたような悠々と土に親しむというイメージとは全く違い、天候との勝負、鳥害、虫害、猿害、鹿害との戦いに明け暮れるものであることを知りました。

そして昭和五十九年から毎日が畑仕事となったので、今度は週休二日どころか月火水木金金生活となった次第です。現在は三百坪位にまで開墾を完了して家内と二人で近所の人達や大阪、東京に居る子供達のため、そして鳥獣のため?に野菜作りに精を出しています。

しかし、このままずっと月火水木金金では、折角の健康の為に始めた畑仕事も逆効果になる恐れがあるので、必ず骨休めの為名所旧跡を訪ねる旅と温泉旅行を少なくとも年二回位実行しています。我が家の旅行は時間に縛られない気儘な旅をする為、ほとんど車で

行くことにしています。

今までに行ったのは北は北海道の最北端宗谷岬、最東端根室半島、最南端えりも岬、西端の松前町、温泉では日本最北の豊富温泉を初め名の知れた温泉地をほとんど経験したり、本州、四国は勿論九州では南の指宿まで出掛けました。

現在、車で走っていないのは沖繩だけで、宿泊していない県は佐賀と奈良だけになりました。場合によっては骨休めどころか強行軍の旅もありましたが、好きなことなので気分的には少しも苦勞と思わず健康増進には役立っていると考えています。

これからは、行き損なった所をピックアップして体の続く限り旅を続けたいと思っております。因みに車の運転は家内の担当、小生はナビゲーターを務め、総走行距離、約四十万軒無事故です。小生が運転していたら恐らく事故を起して、このような駄文を書くことはできなかったでしょう。

当地は、ご承知のとおり日蓮上人生誕の地であるとともに近くに色々と観光するところがありますので是非お出下さい。そして昔を思い出す話をしたいものです。連絡先は冒頭に書きました。

支離滅裂、文章にならない文を書き恥かしいと思いますが、これも年齢のせいとご勘弁下さい。

呆けない為にこれからも、度々筆をとる必要を痛感しました。その意味では、相川君からの寄稿依頼には感謝しております。

同級の皆様、益々ご健健でそれぞのご活躍を祈ります。

「農と風土と作家たち」

鈴木俊彦君の著作

68期 雨宮 明生

68期の鈴木俊彦君が角川書店から「農と風土と作家たち」という著作を出版された。

その出版記念会が三月十四日J Aビルで盛大に開催された。

鈴木君と私は昭和二十五年から二十六年にかけての静高時代「印高新聞」の編集に汗を流した仲間である。当時は朝鮮動乱の最中、全面講和が単独講和で世の中が揺れ動いていた。印高新聞もその波の中でもがき苦しんでいた時代でもあった。

当時の新聞部に所属していた同級生達はそうした風潮を反映してか、大なり小なり将来世の中の本鐸たらんとしてジャーナリズムの世界で働こうという希望をもって

いた。しかし、鈴木君を除いては全て他の業界に身を置いて、初心を貫徹したのは彼だけであった。

ちなみに、我が同級生でジャーナリズムの世界に入ったのは彼を除いて全て他の部活動をしていた人達である。

鈴木君は、早大から家の光協会に入り、雑誌「地上」「家の光」等の編集者として、又、農政分野での優れたジャーナリストとして活躍され、現在フリージャーナリストになっている。

彼の農政に関する知識、卓見は素晴らしい日本に有数の識者である。我々は思っている。第一次オイルショックの時、この危機が今後の日本の農政に与える影響について、私は一晩講義を受けたことがある。その内容はほとんど忘れてしまったが「農業は我々の生活の基本であり、このことを忘れてはならない」と言った言葉が印象に残っている。

今回出版された「農と風土と作家たち」は、専門的な堅苦しいものではなく、彼が編集者として出会った作家たち約八十名の個人、家庭の様子に触れその素顔を描きながら、作家たちの日本の農業への関心や思い入れをユーモアをまじえて書かれたもので、現在、米

問題がいろいろと論議をよんでいる時期にふさわしく、肩のこらないうで日本農業の問題点が理解できる著作だと思っている。

静岡の同窓生には、作家と言われる方々が多いが、作家を描きながら、それらの人達の思い入れを書いた著作は少ないと思う。

そのようなわけで、ぜひ本書をご購読いただくよう同期生のよしみとして、会誌に掲載させていただいた。

国会「村」の近況

70期 桜井 規順

国会「村」の近況をご報告します。

静中・静岡からは六人の国会議員がいます。静岡県の衆参の議員定数が一八人ですから三分の一がわが校というわけです。

衆議院には、原田昇左右さん五六期、柳沢伯夫さん七〇期、牧野聖修さん八〇期、塩谷立さん八四期、参議院には、木宮和彦さん五九期、そして私、桜井規順七〇期。政党内に見ますと、牧野さんが日本新党、私が社会党ですがこの二人を除く全員が自民党です。

七〇期は、正月三日に東海軒会館で新年会をおこないますが、一

九八九年の会の折に、お客さんで呼び出した秋元太二先生が、「へえー、静岡に社会党がいるう」とおっしゃいました。そのとき私は屈辱感ではないですが、いい知れぬ静高らしさを感じました。それは保守性ともとれるし、ある鋭いものともとれます。具体的には、自民党が似合っていてひょっとすると共産系しか考えられないというところでしょうか。

高校のときは新聞部にいました。二年上が雨宮明生さん、一年上が佐藤和男さん、編集技術はもちろん、部の伝統を継ぐというようなことで大変に指導をうけたものです。

しかし私の正体は哲学する高校生だったと思います。

一年生のときは武者小路実篤、内村鑑三、トルストイの人生論、人生雑誌の「葦」が、二年生のときは「葦」を介して山本茂実の『潮』と柳田謙十郎が、三年生のときは清水幾太郎や淡徳三郎らの雑誌「平和」と青木文庫の哲学講義、ゴースキーの小説とスメドレーの中国論などが高校時代の読書のタテ糸になっていたように思います。

このころ読んだ、サルトルの『嘔吐』（外界の動きの自己確認

の把握に感銘）、リルケの『マルテの手記』の状況描写、そして福田恒存のハイデッカー論など、今日なお私の思索の底の方に生きています。

やはりそのころだと思えますが小田切秀雄の『さまざまな思想の平和的共存について』を読みましたが、実は私のなかにさまざまな思想が平和的に共存し、ひとりの人間というのはさまざまな思想・生き方の可能性をもっているものだとかかなり確信に近いものをもつようになりました。

ひとりの人間は、社会主義も、実存主義もキリスト教的生き方でも、どれかを一つ選択しなければならぬものではなく、そのすべてに生き成長する可能性があるのではないかとこのころです。

こう書きますと、自分の子供たちの世代にくらべますとずいぶんまけていたと思いますが、同級生の三木卓、河合代悟、久米旺生らの読書量にくらべますとはるかにひきはなされていた。

要するに、こんな性格から、私の政治選択は、思想ごたまぜの社会党が一番に性にあったのだと思います。校風を統つていようようでもうしわけありません。

連立政府に社会党はいらないとおもしろくないという世論が意外に多いので、いまかなり筋を曲げて、第一与党として、苦汁を飲みながら、議会活動をすすめております。曲げた筋がやがてピンとした政治にできますよう夢をみながらがんばっているところです。

国会「村」において私がやりたことのひとつに、静岡県出身の国会議員が自主的にテーブルを囲むということがあります。

静岡県の皆さんは概して「陳情」の場合、個々の議員を訪ねるわけですが、重要な案件では、全部がひとつのテーブルを囲むという時代を早くつくりたいものです。

とにかく六人が虚心に集まってもよい。私たちがコアになって全部が集まればもっとよいと考えているところがあります。

雑 感

74期 藤原 經史

又、何度目かの春を迎えることになりました。

三月末までは寒い日が続き、桜の花も、いつ咲くのかと気をもんでおりましたが、四月に入り急に温度も上り、充分に力を含んだ桜花が開花した様です。

最近というか、ここ数十年かも知れませんが、日本人のよさはどこにふき飛んだのでしょうか。

コメ騒動といい、かつてのトイレットペーパー騒動といい、自分さえよければという風潮、ますます顕著になります。「和を以て貴しとなす」という日本の精神は今いずこに。私ひとりでしょうか、なげくのは……。

あまりにもニュース合戦の競争で、マスコミもこの際、見直す必要もあると思いますが、如何。

「利は義の和」とも申します。マスコミにも道徳があってもよいと思いますが、これも又如何？

昨年、七四期生東京地区有志で、増田先生御夫婦を囲む会を、八王子「うかい鳥山」で開催、本当に久しぶりに先生とお逢い出来て、大変うれしく思いました。

先生御夫婦の元気のよいお姿を拝見出来、楽しい一時をすごす事が出来ました。ますます元気で、長生きしていただきたいと思ひます。

私達もあと数年で還暦を迎える年になり、健康には充分気をつけて増田先生御夫婦のように、元気でくらしたいものです。

同窓会考

90期 荒井 千明

学生を除いた若い世代は総会に出ない。何故か。若い人は異動が多い。関東に居る、と聞いて連絡を取って見たら、「そうなんだが四月から今度は大阪に転勤で」と又異動。異動が多いので連絡が取れない。これが第一の理由。

第二の理由。総会に出てはみたが知らない人ばかりである。社交的な人は誰とでも話が出るが、それとて社交の域を出ない。過去の共通の話題を探して「社交」する。社交ベタの人はどうにもならない。従って半片のフライでも食べるか、ということになる。盆暮れに帰るといっても、このところ半片のフライなんて口にしていなかった。だから食べてみれば「確かに懐かしい」——と、そこまでである。帰省した時には必ず半片のフライを食べよう、と思うかどうかは知らないが、何らかの理由が他になければ、半片を食べに来年も来ようとは思わない。

更に若い世代は、社会の第一線で働き生活していく中で、郷愁というものをさして感じていなければ、必要ともしていない。絶対的な郷愁感の量的欠除。これが第三

の、そして最も主な理由である。

数年に一度の同期会すら「又やるの」と感じる時期がある。忙しくて面白くて、振り回されて生活している。懐かしさはないのか、と問われれば、なくはないが郷愁は本来一人で味わうもの、大勢居ては興醒めもいところ。それに早くも懐古的・退行的という気持ちがある。正直なところ、懐かしさどころではない。

若い世代はどうなっているんだ、と一部のOBはお怒りになるが、若い世代はこういった現実と普遍的に直面しているわけで、これは本来、健全な現象であろう。

元々、同窓会というものは発起人又は発起集団、つまり言い出しっぱがいて発足する。何らかの必要性や動機があつて発起人は呼び掛ける。「恩師の定年退職を機に同期で集まろうじゃないか」「朋友の某君が他界して一年が経つ。昨年集まった場所であつた交を温め合おう」から、「飲んでたらそろそろやるかってことになって」等々。細かい理由よりも「本当のところ唯、単に懐かしさだけ」という場合は案外に多く、それだけで充分である。だから呼び掛けられた方も、責任や義務からではなく、自らの意志で出向いていく。

集まり易い時期に開く、とか集まった人同士が公私にわたり情報交換をする、といったことは付帯項目である。

同窓会の形態は、つまり集合体である。同じ学校の卒業生といういわば共通カラーを持った人間が、それ以上でも以下でもない要素として同窓会という集合体を形成している。集合体には本来機能がない。又方向性も持たない。集合体に活性化を求め、機能を求めたいのなら、それはむしろ組織であらう。組織化には、静から動への働きかけが要る。働きかけの対象は構成要素（これは同窓会員）であり、活性化し機能を持った組織の力学的ベクトルは構成要素に還元される。つまり回路は閉じている。個々の会員が仕掛人であり享受者である。活性化された状態を保つには必然的に無償のエネルギーが要る。だから難しい。縦割りの同窓会は集合体であると同時に組織体にならざるを得ない。

それなら原点に戻ってこの辺りの事情を確認しておく必要があるのではない。現状の正しい理解は全ての基本であらう。好意と押し付けを混同した不意な行動は、組織化された集合体の空洞化、或いは暴走につながる。

総会に食欲旺盛な学生は大挙押し寄せる。若年層は仲々出てこない。いいではないか。もともと奔放でなく小ぎれいにまとまりすぎた若者は、時として姑息的で何より病的でさえある。幾つになっても節度をわきまえぬ程、後輩は愚かではなからうし、人生中途過ぎれば多少の郷愁も湧いてこよう。「実家でぼつねんと半片をかじっているより、年に一度でもここへ来て同郷の人間と酒呑んで談話していた方が楽しいし、何より郷土を実感する」

そう言える人が増えれば会は盛況となり、会費は集まってくる。それにはどうすればよい。これは個々の会員で考える内容であらう。理由は簡単である。前述した如く、回路は閉じているからである。あなたまかせでは空洞化するしかない。それが自然体と言いたいのなら、前方だけを見て生きていて頂く他はない。

◎年会費未納の方へおねがい

二千円の拠出を
ぜひよろしく

下野和夫先生を偲ぶ会

60期 笠間 達男

下野先生は静中に在職二年半で
 応召し、シベリアで亡くなられた
 が、本会報にも何回か先生のこと
 が登場している。それは先生が戦
 争中に日本の政治に批判的な見解
 を示して在校生に強い印象を残し
 たからである。

この四月九日、60期上杉重吉、
 63期阿部慶三両君の肝入りで、下



野先生の奥さま由起子さんと娘さ
 んの洋子さんを囲む会が静岡ター
 ミナルホテルで開かれた。

奥さまは昭和二十年六月二十日
 の空襲で、西草深の家から焼けた
 され、翌日、当時一歳半の洋子さ
 んと名古屋の実家に行かれ、その
 後静岡へは来たことがなかったと
 いう。

当日午前中は上杉、阿部両君が
 静岡や草深界限、桜満開の浅間神
 社などをご案内し、その後、先生を

偲ぶ会が開かれた。

集ったのは60期萩原
 莊太郎、笠間達男、
 村上英雄、上杉重吉、
 安田正之、63期和波
 博、中山正明、阿部
 慶三、平尾謙司、64
 期渡辺素夫、鈴木明
 郎の諸君である。

奥さまが学校での
 先生の様子を知りた
 いということなので、
 「郷研」の指導
 者としての先生や、
 アダナ（小生、アズ
 キなど）や歴史、地
 理の授業の様子など
 が、こもこも語られ
 た。

また、家庭での先

生や静中に赴任する前の先生のこと
 についても奥さまから伺うこと
 ができた。

会の途中で横浜の60期渡辺博君
 から、洋子さんを自転車に乗せて
 怪我をさせたお詫びの電話があっ
 たりして、参加者は五十年前に帰
 って昔話に興じ、校歌を四番まで
 歌って散会した。

翌日はまた両君が登呂、久能山、
 日本平をご案内し奥さまたちは帰
 名された。

なお、翌日の静岡新聞には写真
 入りの記事が載り、安田君がある
 雑誌に書いた「（下野先生は）軍
 国主義に対する批判を毅然とした
 態度でおっしゃっていた」という
 文章が引用されていた。

城内西の同期会

67期 福原 亨一

浅間さんの祭も過ぎ、駿府城の
 桜が最後の輝きを残していた四月
 九日土曜日の昼さがり、県庁裏の
 堀端におよそ七十人の年輩の男女
 が集まってきた。やがて城内西小

学校址碑の前で男女別に記念撮影
 をすませると、ぞろぞろと馬場町
 の「うを兼」へと歩いていった。

昭和二十年六月、戦災で焼失、
 そのまま廃校となった同校の最後

の卒業生が十九年ぶりに開いた第
 二回同期会である。

「おもひだす さくらとなれば
 母校かな」 神崎 忠

前日の朝日新聞「折々のうた」
 欄に紹介された句が話題になり、
 五十五年前、奉安殿前の桜の花の
 下でとった入学式の写真を囲んで
 話がはずんだ。

三時間におよぶ歓談での圧巻
 は、恩師・山家先生のご挨拶。「み
 なさんの小学生のころは、戦争の
 役に立つ体の強い人をつくること
 ばかり考えての教育でした。本当
 に申し訳なかった。人間には体と
 心の健康が大事です。いまは医学
 が発達して、体はいつでも医者に
 みてもらうことができますが、心
 の方はひとりひとり自分でバラ
 ンスを守っていくほかありません。
 くれぐれも心の健康にご注意を」

九十歳のおばあさんとは思えぬ
 張りのある大きなお声にびっくり
 した一同、だんだんと厳しいお話
 にシユンとなり、最後に大拍手で
 お送りした。

静岡の同窓会報になぜ古い小学
 校の話と、と思われるでしょう
 が、城内西の前身は静岡第一尋常
 小学校（明治三十四年から大正二
 年）で、静岡中学の同窓にも多数
 の卒業生がいるから、との幹事の

強請に従ったまで。どうぞ悪しか
 らず。

静中・静岡テニス部 関東OB会

平成5年2月3日静中・静岡関
 東OBの有志の集いが、柴田克朗
 氏（63期）のお世話により銀座の
 天厨菜館で開かれた。

戦争前、長谷の校舎のテニスコ
 ートがブルの横にあった当時の
 話、戦争中は芋畑となった話、戦
 後長谷の校舎の焼跡からローラー
 を町の中を引っ張って住友校舎ま
 で運んで、部員一同でテニスコ
 ートを作った話、又そのローラーを
 城内の校舎まで引っ張ってまたテ
 ニスコートを作った話、戦後テニ
 スなど知らなかったので、シベリ
 アから復員され日本軽金属に勤務さ
 れていた山田幸作先輩（54期）を
 夏のサマタイム時に、勤務が終
 る時間を待って静岡駅までお迎え
 に行き、コーチをお願いした話、
 学生達で作ったコートはバックネ
 ットも無い、お粗末なものであっ
 たので、大岩の旧制静岡高校のコ
 ートを借りて一緒にプレーさせて
 いただいた話、静岡の斉藤先生に
 は大変お世話になったことなど、
 ……夜の更けるのも忘れて話がつ
 きなかつた。



次は有志でテニスプレーをというこで、5月と12月の二回、明治神宮外苑テニスコートに集まり、往年の腕を競い合って楽しいプレーが出来た。さすが大地君(70期)は往年の日本の一流プレーヤーらしく腕も衰えていなかった。これから年に一回か二回はテニスを楽しむ計画をしていますからよろしく。(67期 児島英男)

●2月3日(天厨菜館)出席者
岩井平一郎(57期) 杉山英男(58期) 清水汪(59期) 柴田克朗(63期)

←12月11日
神宮コートで
↓2月3日
銀座の懇親会

期)児島英男(67期) 増井良敏(68期) 笠井耕一(69期) 大地不二雄(70期) 山中博司(73期)
●5月8日(神宮テニスコート)参加者
清水汪(59期) 児島英男(67期) 大地不二雄(70期) 清水雅彦(72期) 山中博司(73期) 大河内久(73期) 成岡和美(86期) 藤山崇(86期)

期)栗生璋(76期)
●12月11日(神宮テニスコート)参加者
清水汪(59期) 児島英男(67期) 立花雅一(68期) 大地不二雄(70期) 山中博司(73期) 大河内久(73期)



静岡での個展のこと

64期 栗田 行雄

四月十六日から二十一日まで、

地元静岡銀行が追手町電々ビル向い側に新設した画廊で、静岡では初めての個展を開きました。

関東同窓会の上杉重吉先輩が静岡での60期同期会の途次、会場に立ち寄ってくれて、個展の記事を書くようにとの言葉に、筆を執らせていただきます。

さて、絵かき仲間では売れ行きは大変な関心事で、「どうだった」「どんな絵が売れてる」とか、ボソボソと話題になるのですが、一般の人にとっては特別面白い話題もないのです。

会期中に昨年二科展に入選した母校をテーマの五十号の絵を学校に寄贈できたこと。これには、同期の漆畑淑男氏、稲森照男氏、桜井一男氏が小生の申出を早速実行にうつしてくださり、田中校長先生の下見から、学校への搬入等まで、大変お世話になりました。

「展示する場所は美術の先生と相談して決めます」と校長先生が言っておられたから、どんな評価をうけ、どこに飾られるか興味のあるところです。

成績の方も絵が売れない今の時期としては、まあまあであったこと。北川卷平先生がご来場になり、ブーカンこと家永先生が故郷の佐賀で焼物を楽しんでいられると言って行かれたこと。

もう一つ特に申し上げたいのは、同期に卒業、同じ静岡銀行に就職した前記漆畑淑男氏が、最初の飾付けから最後まで、連続八日間一日の休みもなく対応その他に協力して、離静三十年の穴を大いに埋めてくれたことで、持つべき友をもっと深く感謝していること等を報告させて頂きます。

漆畑氏は昔からカメラが上手で、スキー場でのスナップなど、ビクビクする写真を知っていますが昨年十二月に完全リタイア後、各地の撮影会、コンクールに積極的に参加して、賞にも選ばれています。写真のことはよくわからない私ですが、とてもいい線いっていると感じました。そのうち個展を開いてもらい、そのときは大きな花を持参せねばと思っています。

最後にPRを。十月十日より昨年開いた新橋のギャラリー「いそがや」にて第二回展をします。

同期会など

四三期

一月二十日に月例会と新年会を兼ねて静岡の三笑亭でクラス会を開いた。現在は年次会を毎年一回と月例二十日会を開いている。

今回で九十六回目に当り、我々が米寿を迎える平成十年には、丁度記念すべき第百回大会となる。

今度の会合では全員に案内状を出したので、会員の近況や消息を確かめることができた。

当日出席予定の近藤久一郎君が一月五日急性狭心症で急逝されてしまった。今まで大活躍をされていた級友を突然失い、誠に残念至極である。同君と物故された旧友の御冥福を祈って一同で黙禱を捧げた。

今回は常連の出席予定者も風邪で二名欠席となり、大阪の平山桂君も厳寒の折大事をとられて欠席し、東京よりの吉江誠一君を加えての八名となった。

例によって三笑亭のすきやき鍋を囲んで夕刻まで語りあった。

会等を楽しみに散会した。

出席者は次の八名である。

磯谷幸一郎 河村 亮
近藤伊佐男 高須 彰
堀田利郎 見原三郎
八木友治

吉江誠一（東京代表）

東京四三会

四月二十二日、久しぶりに銀座五丁目の木曾路で開いた。案内状を首都圏の会員、静岡の幹事、大阪の平山 桂君へ差上げたところ十一名が参加した。

水戸の坪 晴行君、多摩地区の田崎茂夫君は残念乍ら欠席された。常連の平山 桂君は年初より体調を心配され大事をとられて欠席された。入院療養中の北里良夫君、自宅で静養中の松下篤三、望月孟夫、山村忠雄三君の方々の御平癒を念願する次第である。

会合の当日は丁度花金の昼下りで賑やかな銀座のと真ん中で人出も多く、会場の出入口も人波が立っていたが、定刻には全員集った。

開会の挨拶で始まり、続いて平

成に入ってから激動の昭和年代を乗り越えた面々も他界された方も多く現存者は四十三名になってしまった。その半ばの方々は体調を崩されておられる。

池谷三郎君の音頭で、会員が米寿を全うして二十一世紀までを見届けるまで頑張るよう健康を願って乾杯した。

続いて静岡からの見原三郎君より四三会員の近況と本部の行事の報告があり宴に移った。

会員の一人々々により今までの思い出や近況の報告をしていた。戦中戦後を回想し、時刻の過ぎるのも忘れてしまった。すっかり時間も超過したので定例三笑会、関東同窓会、次回の四三会での再会を約して解散した。

出席者は池谷三郎、倉沢栄吉、嶋田富治雄、長戸寛美、西沢純三、三宅静雄、三好由三郎、柳沢保雄、吉江誠一、静岡より高須 彰、見原三郎。

追悼 近藤久一郎君

近藤君は戦時中、陸軍中尉として応召され、昭和十二年七月勃発の支那事変には北支派遣軍の独立工兵第四連隊の小隊長として京漢沿線の山岳地帯より漢口攻略に参加した。昭和十六年七月には再び旧満洲西東安の第十七野戦兵器廠

へ出征され、東満国境の守備を経て昭和十八年三月には南方派遣軍として朝鮮を南下、釜山―門司―佐伯湾を経由して船団を組んで、敵潜水艦の雷撃を監視しながら南下、パラオ島に到着して野戦兵器廠を設置した。

昭和十九年三月にはパラオ島よりハルマヘラ島―アンボン島へ転進し、ここで遂に終戦を迎えることになった。

敵機の爆撃下、玉砕覚悟の転進や基地設営、終戦後も部隊全員の生還を願っての幾多の辛苦を経たが、人生の機微に通じての指揮、部下の掌握で幸運にも全員無事に復員することができた。

戦後は先ず県会議員として活躍されたが、本来の漁業関係の業務に携われ、焼津漁港の発展に寄与されて組合長となられた。後に、日本鯉鮒漁業連合会長としても業界の発展に貢献された。誠に多大の功績を残された有為の旧友を失い残念である。

（西沢純三）

五五期

平成六年三月二十六日、静岡での五十五期会が四年ぶりに静岡駅南口の静岡ステーションホテルにおいて開催された。恩師の諏訪卓三先生にもおいでいただいて、出

席者は四十六名、関東同窓会から次の八名が参加した。

小澤忠樹、木村康宏、宗 四朗、戸塚正五、法月重雄、日比光明、矢沢六雄、吉川鑑介。

今度の会も山本禮司君のお世話によるもので、同君は昭和十五年卒業以来実に五十四年間続けて五十五期会の幹事を勤めていることになる。われわれはまだこれから同君のお世話になるわけだが、この機会に同君の長年のお骨折りに対し、深く謝意を表する次第である。

（法月重雄）

五六期

五六期の同期会はいしばらく休んでいたが、去る平成五年十月十八日、会場は千代田区大手町の竹橋会館の十一階で、皇居のお濠を見下ろす夜景の美しいところである。

五時半の開会になっていたが、久しぶりということ、五時ごろから続々と集まった。出席した者は、青木良文、石塚由雄、植田政裕、大野日佐太、奥野進、佐野豊彦、三枝充寛、清水逸郎、杉原泰二、杉本正也、鈴木源一、高橋四郎、竹佐太一、鶴岡英彦、戸田栄、西脇光夫、萩原達雄、萩原仁、牧大勝三、松田一郎、山田隆の二十

→ 56 期

57 期 ↓



一名で、連絡した関東地域の在住者は四十四名であった。会は型どおり始まり、乾杯のあとは、室の中央に置かれた食物を気の向くままに取りながら、三々

五々集まってそれぞれのところで話がはずみ、あつという間に予定の二時間が過ぎてしまった。最後に「岳南健児」を高唱して閉会となった。

五六期はこの三月で全員が満七十歳になり、今回の連絡でも体の不調を訴える者がかなりあったが、健康を回復して次には出席できようになることを願っている。

る。そのようなこともあって集まりを屋にしているという意見もあったが、まだ現役の者もあり、次回もやはり秋の夕刻に集まることを約して散会した。(清水逸郎)

五七期(岳南会)

岳南会は毎年五月七日に近い土曜日に、地元静岡市を中心に行われている。記念すべき年度には熱海一泊で開いたりしている。

これも静岡在住の各組幹事の努力のたまものと参加者一同、いつも感謝している。

きりの良い年度には「家族写真アルバム」「文集・ともがき」「続・ともがき」「中学校時代の写真アルバム」と順次出版もしてきた。

また、年に数回安く集って気楽に欠席できる会をと、関東在住者(東京中心)が五月七日から数えて三ヶ月毎に集まる会を年会費一万円で発足し、八月七日、十一月七日、二月七日の年三回の出合いをすることになってすでに二十年になる。

世話役にとってはたいへんな仕事であったと思うが、岩井・影島・月見里君達が献身的に働いてくれ、周辺地区在住者も積極的に協力し、毎回盛会のうちに終ることができている。

会のスケジュールは十八時〜二十時でやってきたが「酒が呑めない」「夜遅いのは困る」という人が増えたので今年から十五時〜十八時に変えた。

昨年の十一月は今年のトライアルで十五時から、静岡からも参加して二十二名が出席した。

久しぶりに逢った友、卒業以来の友とも話すことができた。

鈴木 明君も元気でよかった。野球で活躍した稲葉君も元気だった。青春時代、中学時代の話になると忘れかけていた思い出が鮮明に甦り、話に花が咲く。

終りにはお互いの健康と豊かに若返ることを誓い合って肩を組み校歌を声高らかに歌って再会を期して解散した。

甲府へ帰る車中でも感動が再び胸に迫る。

静岡での同期会にも、皆で出席して盛り上げたい。東京の岳南会へも、都合のつく人は連絡し合って参加しよう。(名取保明)



六〇期

平成六年度静
中六〇期会が4
月18日(月)17
時から静岡駅前
の日興会館にお
いて開かれた。

出席者54名、関
東同窓会からも
有田克己、上杉
重吉、小林金次、
寺尾道也、萩原
莊太郎、原善三
郎、原田龍二の
7名が参加。

代表幹事才茂
普英君の挨拶に
始まり、いまだ
現役にも拘わら
ず、時間を割い

て駆け付けた人も多し中、50年前
の往時を偲んだり、老境に入っ
てきた現在を語ったり、大いに歓談
し旧交を暖めているうちに3時間
がまたたくまに過ぎ、最後は本会
の応援団長、ガスこと杉本武君の
もと応援歌第一、第二を合唱。そ
して校歌は四番まで斉唱、また来
年の再会を約し、幹事阿部昭一君
の三本締めにてお開きとなった。

(萩原莊太郎)



六一期

校歌こそわが心の歌

六一期の今年度総会が四月九日
東京銀座のキャピタルホテルで開
かれた。今年は総会の趣向を少し
変えて東京で開くことになり、静
岡地区から大学二九名が上京し、
関東勢と合せて五九名が集った。
足踏みしていた桜前線も、ここ
にきて一挙に北上し東京は桜も満

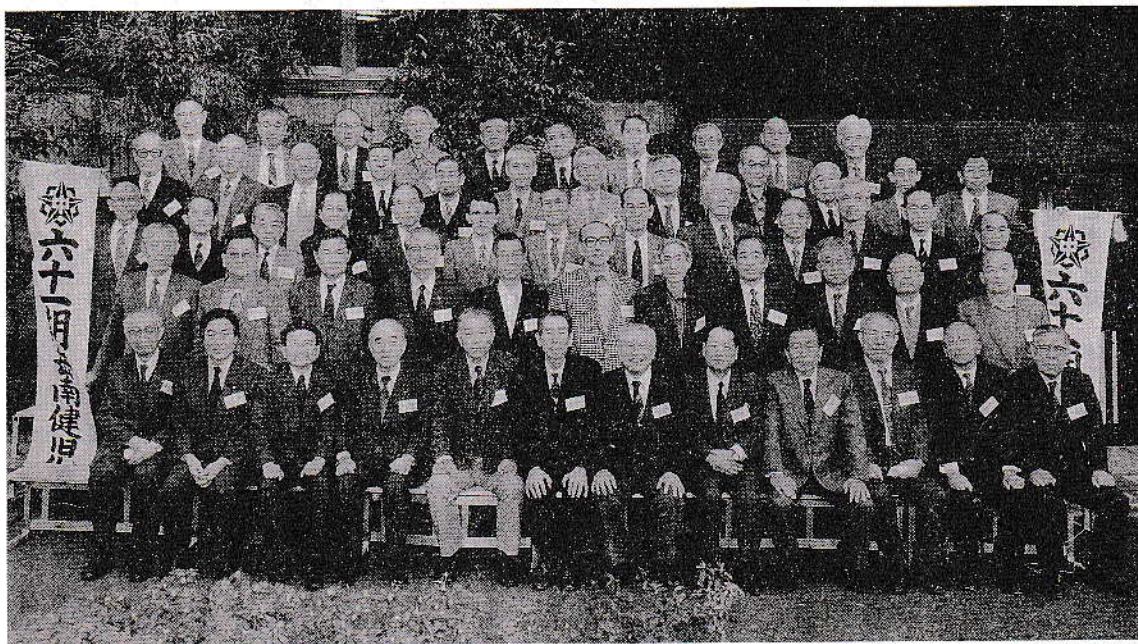
開、まさに春爛漫の中の集いとな
った。

静岡・関東両地区を合せて十人
の大幹事団を代表して山口義雄君
が挨拶、次いで常任幹事の加藤光
成君が一年間の同期生の動静を報
告した。大河原勝義君、佐藤文夫
君、岡村一雄君、原良郎君の四人
の物故者に全員で黙とう。自分達
の周りに年ごとに空席が目立つ思
いで、全員が捧げる黙とうは、い
つになく長く、重かった。

会計・監査報告は兼高英君。有
能な会計幹事の奮闘で会計はかな
り潤沢な様子。

加藤君の話によると、何年か
後、六一期の生き残りが五人とな
った時、この資金全部を使って存
分飲み食いし、これにて六一期会
は解散、という提案がある由、
俄に騒然となった。その時は酒池
肉林を一人占めにするとか名乗りを
上げる輩、密かに期する所あり気
に目配りする人、きんさんぎんさ
んに倣ってひまごに背負われてで
も出席するという御仁など、時な
らぬ爆笑桜花賞レースの展開とな
った。

深井晏君が乾杯の音頭をとる。
今度が初めての出席とのこと、少
年の頃そのままでの面影に白髪が美
しく輝いていた。



加藤君は今度大きな写真の束を抱えてきた。昭和五四年の総会の折の記念写真だが、各人に發送できなかったのだという。頭をかきかきの彼の弁によると、たまたま自宅の増築にぶつかって紛れ込んでしまったが、今年また改築の段になって押入れの隅から忽然と現れたのだそうだ。

十年以上たつてこの中の六人がすでに物故者に移籍していると聞いて、だれもが一瞬肅然としたが、タイムトンネルを潜り抜け、一気に一昔前の若返った姿を写真の中に見つけ出して、まるで逆浦島になったように若々しい歓声をあげる人もいた。

話はいつまでも続いていたが、この辺で望月良君の音頭で校歌斉唱。——僕達六一期はこの三月で全員が六五歳以上となった。炎天下の草薙球場や桜吹雪の校庭で校歌を歌った時、六五歳の人生など想像もつかなかった。いま人々はその頃をさして暗い陰湿な時代だったという。そしてその真っ直中にいた僕達の青春も惨めで貧しいものだったと同情してくれる。確かに時代はそうだった。だが僕達一人一人は物こそ不自由したが心は貧しくなかった。この時代を力一杯、夢中で駆け抜けてきた

という満足感が今でもある。間違いないく誰もが美しく燃え、ひかり輝いていたと思う。

理想は富士の高みに、玲瓏白雪こそわが心——僕達はこうした校歌の言葉で己を磨き、社会に尽くすことを学んできたのだ。校歌の一つ一つの言葉は今も心の中に生き続けている。

時代を逆戻りさせようというのではない。ただ懐古の情からの緑り言でもない。そう、校歌こそ僕達の青春の総てが込められている歌であり、心の詩なのだ。

六五歳の青年達はみな背筋を伸ばし、高きを印しながら青春の歌「岳南健児」を精一杯の声で歌っていた。(相馬 孝)

六四期

春のゴルフ会

平成六年四月二十二日(金)

「今迄に何回も出席して楽しかったが、今日ほど一日中、心うきうき誰に気がねもせず話せて楽しかったことはない。天気予報では雨といていたのに快晴で、吹く風も心地よく、大地は緑、木々は若葉萌えて最高。富士山も一日中、姿を見せてくれたじゃん」パーティーでの風間政彦君の挨拶。本当に快晴で良かった。雨のゴルフは

己の年齢を考えると中止したい位に思う。

六四期春のゴルフ会も十八回目年数で十三年になる。今年も小田急西富士ゴルフ倶楽部で開催し、十五名が東京、静岡より参加し

第一回より出席、途中勤務のため二回欠席したが何故か入賞することなく、ハンディキャップも36のままだの神谷武男君が多年の悲願を達成し見事優勝した。心から祝福する次第。本人も

優勝の挨拶の中で「何度もうめたいと思ったけど、やはり昔の仲間と会える喜びをいつも持っていたから。あと二回は優勝したい」と述べた。

ティグラウンドに上る時に生きてゴルフをやる幸せを感じると語る稲森照男君は惜しくも二位。漆畑茂、鈴木高保両君も同スコアだったが、ハンディの関係で三位、四位となった。

同期の秋山義明、近藤昭蔵、藤田栄君等の御協力で静岡に住んで居る母堂を看護付き病

院に入院出来たが、これも皆友達のお陰と涙ながらに話した渡辺素夫君。昨秋の優勝者で今回はメーカー、次回

は頑張ると宣言した山本和彦君、病気には早期治療が必要と説いた増田誠男君、前日のゴルフの疲れでブービーの岩本吉雄君。硝子越しに全容を見た富士を仰ぎながら時の経つのも忘れて飲談は続いた。

七月十二日、稲森君の経営している菊川ゴルフ場に皆で再会する事を約して散会した。

なお、卓球部以来の畏友、東芝榎原子力の推進者であった大村達郎君が、昨年十月三十日逝去された。謹んで御冥福を御祈り致します。(野澤正憲)

八九期

89期の皆さんへ

東京近郊にいる同期の名簿を作成したいと考えています。そして同期会を開きませんか。

早いもので、私たち89期が卒業してからもう20年以上がすぎました。働き盛りの年代でもあり転動している方も多いため、関東同窓会の出席者の数も片手で足りるほどです。また、関東同窓会事務局の名簿も空欄だらけです。生まれてから静岡を卒業するまでよりも、静岡を卒業してから後のほうが長くなったわけで、皆さんもさぞ変わったのだらうと考えていま



す。

私も現在は二女の父（次女は昨年10月10日に生まれたばかりです）となり、今一番の趣味となっているチェロの演奏・オーケストラ活動も20歳を過ぎてから始めたものです。仕事も30歳を過ぎてから国家試験への挑戦をはじめ、なんとか合格をして現在は税理士事務所を経営しています（税について何か疑問があったら気軽にご相談下さい）。

たまには同期が一堂に会して同期会を開くのも良いと思いませんか。そのためにはまず、出来るかぎり正確な名簿（住所録）を作成する必要があります。幸い私は開業したばかりでまだ顧問先も少なく、時間だけは十分にありますが、で名簿作成の窓口になるうと考えています。賛同して下さる方はご連絡ください。一人一人の持っている情報を積み上げれば、より良い名簿が出来ると思っています。電話でもFAXでも結構です。

連絡先 〒167 杉並区善福寺3丁目31番3号 鳥巢修（89期）03（3395）8860

追伸 関東同窓会の事務局より年度幹事をするようにとの依頼があり、勝手ながら引き受けさせて頂きました。

「こえ」

気軽に筆を執って
お送りください

平成5年12月刊の36号では、スベースの関係などで「こえ」欄を割愛しましたので、この37号ではその後の新しいお便りもあとに加えて掲載させていただきます。月日の点などで不正確なところもあるかと存じます。失礼の段はなにとぞご容赦ください。

◎平成5年11月までのおたより

42 中嶋 敏
なお健在。ただし日々衰頽に向かいつつあり。

43 山村 忠雄
四三期の西沢様に変お世話になっており、ご厚情に感謝いたします。

43 長戸 寛美
西沢君のおかげで友だちの消息を知ることができありがたいことです。私もいつか八二歳となり、足首の痛みで歩くのに難渋し、軽い靴を履きステッキの厄介になっています。家に在るときはもっぱら読書三昧、「八犬伝」・「失われた時を求めて」など長いのを読んでいます。

45 石上 稔
昨年自分の不注意により大腿部

粉砕骨折で四ヶ月入院、その後、リハビリの為目下歩行練習中ですが、完全復帰まであと数ヶ月かかりそうです。然し不具にならずに済んだのはせめてもの事と思っています。歳のことと考えこれからはおとなしくする積りです。近況お報せまで。

45 下川 猛
七十年前の昔、昭和のはじめ頃が甦って若き日の思い出が胸をうつことがあります。

47 関口不二夫
早く逝った友の姿もそのままだこちらの脳裏に残っています。幸い体だけは丈夫であの頃のことを思いっきり独占している毎日です。

48 青木 香
前略 静中同窓会報をご恵送たまわりありがとうございます。山川静夫さんの記事に興味深く拝読いたしました。久しぶりに静岡弁に接し、ふるさとに帰ったような気持ちでした。同窓会のますますのご発展を祈りあげます。

48 青木 香
会報いつも懐しく拝読させて頂いて居ります。事務局並びに幹事

の方々に心からお礼を申し上げます。私事お蔭様で相変らず無事に過ごして居ります。

48 近藤 希賢
五十年余に及んだ会社勤務が完全に終りました。幸い体の方がまだ持つ様なのでゴルフと碁に精を出す生活を送っております。

52 小川善次郎
今回の第35号会報には52期の諸兄の集いの記事も出ておりましたので懐しく拝見いたしました。各期の方々のお元気に活躍していらっしゃる様子が察せられ心強く思っております。幹事の皆様の御尽力に感謝いたします。

55 戸塚 正五
古稀を迎えましたが、お蔭で健康には恵まれ人生はこれからの心意気で元気に毎日を過ごしております。

56 佐野 豊彦
この頃は地域の文学愛好者グループのお世話をしております。それに付いても驚くことは、知的な高齢者が、なお向上心を失わず勉強を続ける姿の如何に若々しく魅力的であるか、ということです。

57 久保田誠三
先般、任期満了で国土庁土地鑑定委員会の常勤委員を退任しました。地価の高騰、下落等の中で

三期九年のつとめでした。その思いを次の拙い歌に託します。
地価公示に九年勤めて去る日来ぬ
神話崩るる世をば目に見て

58 猪瀬 忠賀
このたび四十七年間にわたった職業生活を退き、無禄の身となりました。昨春来宿痼心臓病が悪化して入院を繰返し、心ならずも療養専一の毎日を余儀なくされるようになったからです。
静中を卒業してまさに五十年。「往事茫々夢の如し」か。

60 逸見 昭三
老人の儼みを二、三、年一回二千元の会費がどうと言うのではないが、この振替を出しに行く面倒さ、なんとかならぬものか。私も勤めていた学校の同窓会なるものの幹事をしていて、なぜ卒業した学校にこうも拘るのか、よくわからない。友人と同窓とは違うからね。

60 柴田 正臣
今迄は現役でなかなか暇が作れず御無沙汰ばかりしておりましたが、この度漸く後進に道を譲り自由な時間を作れるようになりましたので、是非諸先輩に時間の有効活用についてご指導頂いて、本当に有意義な人生を送れるよう頑張りたいと思っています。

ゴルフ同好会にも入りたいと思
っています。

60 辻村 輝彦

清水からの新幹線通勤も少々
しくなってきましたが、頑張っ
ております。各位も御体に気をつ
けて頑張ってください。

60 齊木 学

六月末の株主総会で社長から代
取会長になりました。バッテリー
とエレクトロニクスの会社です。
社会に貢献出来る製品づくりに一
層頑張ってください。今後ともよ
ろしく願います。

60 渡辺 博

開業医となつて三〇有余年、毎

第47回 江の島会 予告

一、日時 九月四日(日)正午開会

一、場所 江の島恵比寿屋旅館

(35期永野清氏経営)

一、会費九千円 女性七千円

(記念写真代を含む)

年会費不要

一、連絡先 江の島会事務局

(59期 奥沢 勝山塗装内)

(〇四五(30) 五五四五)

一、追記：八月上旬頃ご案内いた
しますが、遠近を問わず多数のご
参加をお待ちしております。

日患者さんとの対話をしみなが
ら頑張っています。

休日、好きな釣りに出掛けて
台所を助けています。海釣りの同
好会でも出来たら喜んで参加しま
すのでよろしくお願い致します。

61 北村 敏二

64期渡辺氏の教職追放の裏話興
味深く拝見しました。間処、宮林、
松村の三氏がよく追放にならず過
せたものと異様に思っていました。
この様な変節漢と一念を通した
家永、松田岡先生。生活の問題
もあるでしょうが、間処を救った
のが共産党とは？

61 山崎 和夫

御無沙汰致して居ります。関東
同窓会の益々の発展を祈念しま
す。

故鈴木会長のご冥福を心からお
祈り申し上げます。

64 豊納 健蔵

小生も年齢が到来し、テックエ
ンジンアソシエイトの代表取締役
務を退任し、現在嘱託で勤務いた
しております。

64 大村 達郎

小生長いこと腎不全を患ってお
り、人工透析治療中です。会社は
定年退任しましたが、顧問という
形で出ております。

66 中村 伸吾

会報を楽しく読ませていただい
ています。先輩には、記憶力もよ
く、ウィットに富み、ユーモアの
ある方々が大勢おられると驚嘆し
たり、自分がその歳になってこん
なに立派な文章が書けるかなと心
配したりして――。

66 菊田 聡裕

同郷の友と共に働く関東同窓会
に出席出来ないで申し訳ありませ
んが次回はと期待しています。第二
の人生とはいえ小さな会社を二つ
引受け、後何年かと考えながら頑
張っています。幸いに仕事の分野
は道路交通の改善にソフト・ハー
ド面から追求しているので忙がし
い日々です。

66 山梨 裕司

会報によると母校は春季優勝と
のこと、夏の大会を期待し、久し
振りの甲子園出場を祈念いたしま
す。

山川さんの記事、とくに静岡弁
が大変面白く拝読いたしました。

67 朝倉 勇

画展が十一月にジュネーブのガッ
ト本部で開かれます。

67 福原 亨一

93年4月より岩手大学人文社会
科学部に奉職、政治学を担当して
います。

盛岡は北に岩手山の美しい稜線
を仰ぎ、「岳南健児一千の……」
の校歌を毎日思い出させてくれま
す。

68 塚本 浩司

今年の夏山は三回共雨にあいま
した。特に八月は北岳バットレス
をめざしたのですが結局は飲食寝
のみ。雨で重くなったテントを背
負って下山しました。

町内自治会の福祉委員になり、
九月十五日敬老の集いを実施。準
備に大忙し。イヤ疲れました。

69 堀場千賀重

いつもお世話になります。ごぶ
さたばかりしてすみません。相変
らず元気に過しております。会社
の定年をすぎてもまだ働いており
ます。勤務先 東宝舞台株式会社

70 牧野 甫

山川静夫先輩の「わが青春の野
球時代」と渡辺素夫先輩の「野球
の神様登場」ととても興味深く読ま
せていただきました。静岡野球部
中々甲子園出場ならず残念です。
来年こそはと念じております。

71 浦田 彰

転勤つづきのデランシネ生活から
やっと足を洗いました。

暮すなら地方都市とつくづく思
うこの頃です。暮し易さ日本一の
静岡、帰巣本能がうずきます。

71 富野 寿

会費の納入が思わしくない印象
をうけますが、銀行引き落とし制度
を併用したらどうでしょうか。郵
便振替えは結構わずらわしく、つ
い一日延ばしとなります。既に併
用を実施している同窓会もありま
す。会員が五千人を越えれば十分
いけます。関東で定めなら本部で
も。

富士通電子デバイス特約店・OA機器販社

東海デバイス株式会社

(旧社名 東海電気工業株式会社)

顧問 清水 照彦 (61期)

本社 東京都目黒区目黒4-6-33

TEL03-3791-1181(代) FAX03-3715-1558

72 増田 欽一

昨年九月、腰椎椎間板ヘルニアの手術をしました。今は毎日温水プールで歩いています。

72 前田 信三

ふるさとを離れると母校の野球部の様子がわかりません。今年は強いのか、ベスト8くらいまでは大丈夫とか会報で事前に流して貰えば助かります。甲子園に行く時は寄付します。

山川静夫さんの記事はなつかしく読みました。

73 小山 武夫

平成四年、忘恩を謝すべく初めて七三回期関東同期会に出席しました。会の盛況さに驚くと共に幹事の苦勞に感謝しております。

仕事の関係で、おまね所で同窓の人に会う事も多く、静岡同窓会の益々の発展を祈っております。

73 深沢 靖男

役員の皆様のご努力に敬意を表します。岳南健児の静岡高の関東同窓会をお手本として、波メロデリーの静岡商業も関東同窓会を発足させたとのことです。

73 遠山 敦子

今は、文部省高等教育局長として、日本の大学の戦後最大の改革に取り組んでおります。ところで、静岡野球、どうぞ頑張ってもらいたいものと思います。

74 水上 雅雄

まだ若いと思われるいた半導体産業も成熟段階にきたのか、将来に向けて厳しい状況になっていく。仕事のことを忘れる意味で古代史を研究している。温故知新のたとえ通り、日本の古代史には、明日を切り開く教智が豊富に隠されていると確信している。

ゴルフ同好会に以前入会していましたが、ここ数年、ゴルフ同好会の案内通知が来なくなっています。もしこの同好会が今も存続しているのであれば、再び入会したいと思っておりますので、その手続、連絡先を教えてください。

76 富田 駿介

昨年の秋、関東地区の同期会は卒業以来初めて参加させてもらいました。二十九年振りに会う人もおり、大変楽しい一時をすごさせて頂きました。

80 柴田 裕

近々、静岡へ居を移そうと考えています。両親の高齢、長男である事、新幹線による通勤の可能等が理由です。

84 村松哲太郎

第35号50期大庭先輩の冗句大変おもしろく拝読いたしました。古きよき時代に生きられた先輩の大らかなお人柄が感じられ、このしちめんどろくさい世の中に、一服の清涼水を飲んだ気分です。先輩によりしく。

84 小沢 治夫

平成四年十月五日死亡

永い間同窓会の一員に加えて頂き、また卒業生として母校を誇りとして八十一年の生涯をとり天に召され入間のメモリアルパーク浦和福音自由教会の墓地に多くの兄弟姉妹方と共に眠って居ります。幹事はご辞退して居ったとばかり存じて居りましたのに、大変皆様にご迷惑をおかけ致して居りました。何卒おゆるし賜りますようお願い致します。会の御発展を祈ります。

◎平成5年11月以降のおたより

44 村井 東助

妻 徳子

46 河村喜久雄

52 今井 健三

私はキャノン機を60歳定年で退職し、キャノン関連会社の精光

57 大島 隆夫

おかげさまで、元気に毎日会社勤めをしています。

59 関 寛治

京都の立命館大学で国際地域研究所長と大学院科長を兼ねることになりました。米国とのデュアル

59 青山 勇

最近、医者、病院に対する批判が多く、神経を使う毎日ですが、医者になったおかげで、まだまだ仕事があるのは、有難いと思うべきだ、とも思っています。

社で技術顧問として常勤しています。静岡時代は松村健三で卒業しています。

今年で金婚式もすませ、子供三人孫五人で平和に暮らしています。

55 山本 孫一

どちらが卵か鶏か分りませんが、広い意味で色気を絶やさない、枯れてしまわない。その秘訣は元気で永生き。

56 伊東 卓爾

山下先生のきれいな板書、色チョークをふんだんにお使いになったお心配り、今ありがたき思い出します。ご他界された由。ご冥福を祈ります。

56 青木 良文

私は昨年の古稀を迎え春は叙興の榮に浴し、秋には園遊会に招待されました。園遊会は今回二度目です。

57 大島 隆夫

おかげさまで、元気に毎日会社勤めをしています。

59 関 寛治

京都の立命館大学で国際地域研究所長と大学院科長を兼ねることになりました。米国とのデュアル

・ディグリー協定で日本と米国の関係のフロンティアを創造しようとしています。一昨年と昨年京都でISAGAとIPRAを開催しました。

昨年七月、朝日興発の社長を退任、相談役として勤務していますが、いよいよ年金生活というところで、これからの人生に改めて生き方を考える年になりました。諸先輩のよきアドバイスをいただければ幸甚です。

59 青山 勇

最近、医者、病院に対する批判が多く、神経を使う毎日ですが、医者になったおかげで、まだまだ仕事があるのは、有難いと思うべきだ、とも思っています。

61 小久江浅二

インドネシア、英国、ベルギーと11年振りに昨年夏帰国しました。

62 小宮 鳥夫

懐かしい諸兄によりしくお伝え下さい。

67 小杉 謙一

人間ドックでの検査結果、糖尿領域に踏込んだとのこと。体重減量のため一日一時間速歩で散歩、酒量を減らす等長続き出来る様努力しています。長年酒好きのイメージを自他共に転換するのは大変

ですが、何事にも先ず健康と頑張っている此頃です。

67 稲葉 昌弘

67期は恒例のゴルフコンペの記事を楽しませて頂き、旧クラスメートのお元気なさまを想像し、想昔のひとときを楽しみました。

68 市原 卓

昨年四月より、関連会社、山武商会へ転籍致しました。

70 影山 昇

静岡同期の友人の賀状に、早くも肩たたきに会い、今春は職がしたとあった。定年までまだ5年間、自分の仕事に打ち込む機会を与えられている自分の幸々を思い、これからの一年一年を大切に過ごしていこうという覚悟をしてこの一年も歩み続けていきたいと思う。

(東京水産大学教授)

70 富田 三樹

上杉様にも家族がお伝えした通り、心臓バイパス手術で入院という事になってしまいました。

70 遠藤 藤弥

サラリーマン生活も残す所一年余。この歳になっても健康でいられるのは、毎週末の水泳です。一回二千米を約一時間三十分。三保

で生れ、遊びといえば水泳が小学校時代。中学高校と汽車通学で静岡へ。故郷で育まれた身体は簡単

には壊れません。故郷に感謝あるのみ。

71 金子 雅彦

大阪に来て、六年目を迎え元気に頑張っています。すっかり関西人としてなじみ、関東とは縁遠くなりました。関東に転任の折は、

73 西本 昇平

同窓会は、古い人間が昔をなつかしむあまりに、現在と未来を語る若々しい雰囲気を感じがた。若い世代は先輩に気がねして、面白くもない懐古談にあいづちをうちつつ、酒を飲む。ぼくも古い世代に仲間入りしたので、こんな事を自戒しつつ、次回同窓会に出よう。

会報第36号には高齢の大先輩方の文章があつて、55歳を越えた私には大変に興味深く、味読させていただきました。私は今、中国古典文学書を読みふけて日々楽しんでいきます。立派な内容の書物を安価に提供してくれる出版界に感謝している次第です。

73 山下 省三

商社に勤めて、経済協力(ODA)の最前線に居ます。どなたかご興味ある方はお便り下さい。

雑誌「東京人」12月号の山川静夫氏、村松友視氏両OBと長山藍子氏の座談会を楽しく拝読しました。静岡出身者の各界での活躍ぶりをうれしく思います。

73 松下 勝朗

元気で仕事に励んでおります。仕事の受注量が少しずつ増えて来て一安心といった所です。

75 岡村 幸雄

関東同窓会の存在を数年前に知りましたが、自分の時間に余裕がなく、遠い存在でした。

85 森 勇二

昨今、学生の就職は大変厳しいものがあります。偶々現在採用関係の部署にいますので、少しでもお役に立てればと、まずは、初めて会費を納入します。宜しくお願ひします。

東洋大学で外国人留学生に日本語を教えています。外国人問題が急務の課題となっている今、さまざまな分野の方々と手を携え、この問題の解決に取り組んでいきたいと思っています。

94 斎藤 里美

10年くらいの区切りで年代別の集りを企画してはいいかがか。

94 小池 一徳

例えば、20代の同窓会、30代の同窓会、40代の同窓会等々。

現在、中堅どころの参加者が少なすぎるのでは？

96 朝比奈由典

埼玉の県庁の所在地、浦和に引越しました。静岡と違い魚が悪く水もまずいのでまっています。

1万円からはじめる
株式投資

るいとう
株式累積投資
マイストック

※株式は値動きのある証券のため、元金が保証されているものではありません。



新日本証券

本店/〒101 東京都千代田区神田駿河台3-11 ☎03(3219)1111

相談役 大石 巖(53期)

㈱新日本証券調査センター 常務取締役 谷川 治弘(70期) 常務取締役 海野 幸雄(71期)

名古屋支店 安原 興七(75期) 名古屋支店 原田 吉男(78期)

国際企画管理室(香港駐在) 小林 一郎(90期)

㈱新日本証券調査センター経営研究所 奥津 和宏(91期)

静岡だより

静岡野球部

対静岡定期戦

今年で36回目となる静岡との野球定期戦が、四月二十九日、およそ八千人のファンの見守る中、草薙球場で行われた。試合は1点を争う好ゲームとなったが、3-3で延長戦に入り迎えた10回裏に、

清水監督の大胆なコンバート作戦に軍配が上がった形となった。

〔静岡対静岡定期戦〕

静岡 0 0 1 0 0 2 0 0 0 0 3
 静岡 0 0 0 0 1 0 0 2 0 1 X 4

定期戦の内容で振り返ると、良くも悪くも、静岡らしさが見えた試合だった。昨年から強力打戦のレギュラーだった深津や滝口らは今年も好調で、この試合でも深津の4安打をはじめとして12安打を放っている。このあたりが、中部地区大会で優勝できる底力といえる。

この勢いをかって臨んだ定期戦だったが、この日、静岡の清水監督は、エース山崎の打撃を買って右翼に残し、不動の四番捕手の大木を三塁に回して打撃に専念させる作戦をとった。

その結果、好役を続けていた静岡のエース深津が1-0から山崎に同点ホームランを喫し、また、極度の不振に陥っていた大木も、

り、10回には犠打でランナーを二塁に送ってサヨナラヒットの舞台を整えている。

「こういう試合の繰り返しで選手は強くなる」と評した静岡清水監督。「こういう負け方をして選手は成長する」とは静岡八木監督のコメント。それだけが、なるほど！というはずけるものがあるが、伝統の定期戦を通じて切磋琢磨し合い、春期県大会や夏の県予選の決勝で顔を合わせるためには、お互いの長所を取り入れ合う工夫が必要となるだろう。

また、現役戦に先立って行われたOB戦では、往年の名選手が登場し、昔を懐かしむ高校野球ファンの熱い拍手を浴びていた。

試合は四回までは4-1とリードしていた静岡のOBだったが、4回から静岡がマウンドに送ったのが、近鉄の太石大二郎選手と75年の選抜で8強入りした時のエース海野隆志氏。120キロ台の速球を見せられてからは打線が湿り、後半は静岡OBの猛攻を受けて、4-10（7回時間切れコールド）で敗れた。

〔静岡対静岡OB戦〕

静岡OB 1 2 1 0 0 0 0 4
 静岡OB 1 0 0 5 4 0 X 10

静岡県立美術館に

「ロダン館」がオープン

静岡市谷田の静岡県立美術館に三月二十三日、フランスの彫刻家オーギュスト・ロダンの作品32点を収容する国内初のロダン専門美術館である「ロダン館」が併設され、オープンしました。

もともと「県美」は、所蔵作品の人数もさることながら、静鉄電車の「県立美術館前」駅から続くプロムナードの雰囲気の評判でした。春の桜から初夏の新緑、そして秋の紅葉、冬枯れの木立まで、散策の目を楽しませてくれる要素も多くあり、県民の憩いの場となっていました。

今回開設されたロダン館は、本館とブリッジで結ばれたラグビーボールの形をした高さが約20メートルの建物で、ガラス張りの天井から降り注ぐ自然光を十分に採り入れた戸外感覚の設計となっています。作品もちらし陳列されていて、「目で触れる」ように作品の周囲を回って鑑賞できるようになっているのが特徴です。

展示作品は、県美術館三周年を記念して購入された「カレーの市民」6体をはじめとして、「地獄の門」「考える人」「永遠なる休息の精」など、ロダンの主要作品32点および、二十世紀の彫刻造形の流れを示すブルーデル、ムア、ジャコメッティなどの関連作、



平成五年度会費拠出者

(順不同・敬称略)

平成5年11月1日～6年3月31日

42 宮澤次郎

44 村井東助(10)、増井三郎(5)

45 鈴木進(10)

46 石上稔、黒田朋彦

47 内山規、西静男、田中修三

48 杉山栄一、星野三郎、吉見四郎、片山正二

49 太田正之、佐々木英夫

50 梶原忠治、住太郎(6)、江川友治、山田喜志夫、大庭富士夫、橋川輝一

51 下山富太郎(4)、森弘、田中賢一、永井五一郎、原崎郁平(3)

52 田中貞司、石野浩一、曾根信一、今井健三

53 桜井昌也、片桐鎮夫、志田寿一、稲畑勝

54 山口道也、鈴木猛、禰津三朗

55 山下武男、山本孫一

56 青木良文、原田昇左右、横森桂、高橋四郎、石塚由雄、伊東卓弥、萩原仁、伊藤象一(4)、北村甫

57 杉山正友、渡辺武男、酒井博

58 大島隆夫(3)、加藤健三、富

田澄、藤巻重男、望月修、天野喜久雄、稲葉登、鈴木明、鳥居義彦、鈴木克己

59 伊藤健三、末広照男、海野進(5)、須山静夫、岩本忠吉、向井晃、望月恵一、安井幸一

60 鈴木栄三、横山芳男、服部健一

61 青山勇、高橋裕、富永利夫、小沢武彦、青木豊(4)、長谷川邦三、狩野和男、内田武二

62 水野哲也、青木静男(6)、藤川礼司

63 鈴木光男、堤崇、山崎鏡次、辻村輝彦、井田淳、山本善通、野沢栄司、満間猛、池上晴介、山本雅之助、鈴木正己

64 片桐篤、相羽達雄、小久江浅二、立花幹夫、末吉晴夫、土井正園、仲野辰男、長瀬脩、黒川泰三、巻田英一、坪田昭三、酒井茂

65 白鳥芳夫、川手生己也(3)、三枝弘之、吉川隆士、入江喜久夫、小宮鳥夫、寺尾寿夫

66 横井一、渡辺宏一

67 馬越峻、山下裕一、杉本幸貞、小林五郎、加藤昭、原常勝、前田和彦、山本俊夫、尾入泰彦、藤原朝則、瀬尾章、曾根錦吾、佐野辰美(4)

68 小沢敏二、塩沢満(4)、稲葉

69 昌弘、滝川博、角田栄一、戸塚惣雄、小杉謙一、石川武治

70 杉田勝男、西畑隆志、松岡健秋山和也、横山富士夫、小林功典、石川晃昭、稲葉清

71 小林泰三、神谷貞子、松島玲子、吳章、笠井耕一、加藤哲也、神谷東洋

72 鈴木明次、中村竜二、仁科正雄、佐々木政之、大長智、石川悟、富田三樹、大地不二雄

73 山田隆嗣、白石通子、吉田修井田勝久、遠藤藤弥、村上雅一、有田久、横山元二、影山昇、遠藤和夫

74 野沢弥寿(3)、酒井力、安藤竜男、池本徹、望月祐言(3)

75 金子雅彦、鈴木功、曾根敏美(3)、奥村鋭一郎、山田卓夫

76 大井康生、関本光宏、宮崎次郎

77 大石堯史、青木俊一郎(3)、松下勝朗、鈴木豊、山下勇三

78 西本昇平、原川順男(5)、山本一雄

79 稲垣幹雄、萩原茂春(3)

80 大島崇志

81 坂内三容(4)

82 小長井奎幸

83 多田佳忠、入谷健彦

84 磯谷修平、森勇二、寺尾易真

85 高橋成彰、三上嗣夫、佐久田

品の合わせて51点です。

故郷・静岡の新しい名所となった「県立美術館・ロダン館」、どうぞお暇をみつめて、一度ご訪問下さい。

交通機関は、静鉄電車で「県立美術館前」駅から(少し上り坂ですが)ゆっくり散策しながら、徒

博司、野島照雄
小池一徳
斉藤光晴
伊藤孝太、牧野雅之

歩15分、車なら東名静岡インターと清水インターから約30分の距離で、駐車場はたっぷりあります。

開館時間は、午前9時30分から午後5時(最終入館は4時30分)で、月曜日が休館日です。

(85期 吉水 慶)

「会報」編集子から

○毎号、バラエティに富んだ原稿を寄せてくださる方々に、心から感謝申し上げます。

同窓会員の絆をより強くとの願いをこめて、さらにより充実した誌面になるよう、一層のご協力をお願いいたします。

○原稿尊重を建て前としておりますが、加筆や訂正をさせていただく場合もあります。原稿校正の際その筆蹟等で、お人柄を推量する楽しみが、このごろはワープロによる原稿が増えて半減することもあります。

○提供の写真について、返却の必要があるかどうか書き添えていただければ幸いです。

○原稿依頼や掲載広告について、候補と思われる方をお知らせくださいますようお願いいたします。(U)

国際線航空貨物・海外旅客取扱
運輸大臣登録旅行業代理店業3440号

株フジ・ワールド・エンタープライズ

代表取締役 中馬敏雄(70期)

〒105東京都港区浜松町2-8-9 春原浜松町ビル

貨物電話 3434-0591(代)

旅客電話 3437-5861(代)

FAX 3434-5537

鈴与株式会社

取締役社長 鈴木 通弘 (76期)

清水市入船町11-1

TEL 0543(54) 3 0 1 5 (秘書課)

東京支店 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F

TEL 03(3284) 0 5 5 3 (総務課)

株式会社 東電社

取締役社長 岩波 信平 (42期)

東京都品川区西五反田1-14-2

TEL 03(3493) 6 3 9 1 (大代表)

建築コンサルタント・設計施行業務
建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長 奥野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7・共同ビル10階

TEL 03-3834-5331 (代表)

建築設計・監理

奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野 孝 (53期)

取締役社長 奥野 進 (56期)

取締役副社長 奥野 広 (58期)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

TEL 03-3842-6 8 3 1 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

Tel 054-246-9 3 7 8

日本レーベル印刷

代表取締役 岩井 平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054(262) 1 1 1 1 (代)

東京 中央区京橋1-1-6越前屋ビル8F

TEL 03(3272) 4 6 5 1 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤 徹 (59期)

本社 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246

Tel 045-301-5545

大和工場 大和市深見3706-1 〒242

Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355

Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈 正三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-3254-2 1 7 1 (代表)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドック

熱函病院

院長 小坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3 1 3 1

☞ 昼2時より夜11時まで診療 ☜

タカラ歯科診療所

代表 葉科 名雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分

TEL 0120-376480

株式会社 富士越 株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤 正憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL (3409) 3 3 4 2 (代)

TEL (3400) 9 5 4 1 (代)